



# 幻の校舎

掛川小学校が上内垣外（かみうちがいと）の観音堂から始まったことは前号のコラム「掛川小学校発祥の地」で述べた通りですが、今回はその後の校舎の変遷について触れてみます。

上内垣外の学校は明治7年、観音堂での創設以来、校名が何度も変わりました。明治末期の校名は掛川尋常小学校でした。

この校舎では下半田川からは遠いというので、明治の終わりころになると両町の間地点に新校舎を建てる計画がもち上がりました。借金をしたり、寄付を募ったりで校地も確保でき、ようやく新校舎が建つ運びとなりました。場所は現在の掛川公民館真北の山の上、いわゆる稲垣山の一部です。大正元年にいよいよ校舎建築がはじまりました。39年間の長きにわたって続いた上内垣外の学校はこれをもって幕を閉じることになりました。しかし、大変なことが起こりました。その年の9月21日、強烈な暴風がこの地方を襲い、建設中の校舎が倒壊してしまったのです。上の運動場にあった完成間近の校舎は一度も使われることなく幻の校舎となったのです。

こうした大災害を克服し、翌大正2年にはもう新しい校舎が建て直されました。場所は現在の掛川公民館の上の段で、現在も1本のソメイヨシノの老木が立っているところです。高台では風当たりが強いとの懸念から低い場所に校地が移されたのです。

建築資材は倒壊した校舎の廃材が多く使われました。そのため、でき上がった校舎は寸法が足らなくて天井が幾分低かったといえます。特筆すべきは二度とあのような目に合わないようと、ごていねいにも校舎の表裏にそれぞれ7～8か所くらい頑丈な栗の木のつん張り

棒が取り付けられたことです。美観より堅牢さを重視した結果でした。これがいわゆる「つん張り学校」です。遠足などで学校の前の道を通る他地区の小学生から「掛川学校、つん張り学校、ツーンと引いたらガーラガラ」などとはやしたてられたものでした。現在60代後半以降の卒業生ならこの学び舎を忘れることはできないでしょう。



つん張り学校

倒壊した校舎が建っていた跡地は「上の運動場」と呼んで運動会などの特別な行事のときに利用していました。



上の運動場での運動会（西から東に向かって撮影）

つん張り学校は大正2年から昭和30年3月までの42年間、そしてその後建て替えられた一部2階建て校舎は昭和58年3月までの28年間、現在の鉄筋校舎（平成26年現在築31年）に新築移転されるまでの間、計70年間にわたり旧校地のソメイヨシノとともに地域の子どもたちをはぐくんできたのでした。